

コラム いきいきさん

第27回 一陽会クリニック 看護部主任 広兼美佐子

日本中を旅行することが今の目標です。

一陽会に入職して25年が経ちました。これほどまでに長い間勤めさせていただけたことを心から嬉しく思っています。

この25年間、仕事では常に「言葉づかい・態度」に気を付け、患者さまが不愉快な気持ちにならないよう、苦痛な治療でも病院に行きたい気持ちになれるよう心掛けてきました。また、医療事故のない、患者さま個々にあった安全な治療が行えるようにも心掛けています。

今までは仕事と子育てに追われ、あまり自由な時間などなかったのですが、やっと子育てからも手が離れ、少しずつ時間も取れるようになりました。最近では老後のことも考え、ガーデニング、野菜作りなど園芸の勉強を始めました。旅行も趣味にして日本制覇することが今の目標です。

これからは今まで以上に、患者さまにとって優しく安全な治療を続けていけるよう努力してまいります。



原田病院外来診察担当表 (平成26年4月1日～)

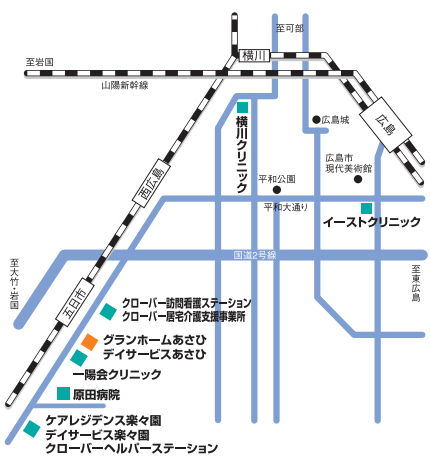
●診察時間 午前9時～午後12時 午後4時～午後6時

☆当院では待ち時間短縮のため午前中の診察は予約制となっております☆

■ 一般内科外来	■ 糖尿病外来	■ 泌尿器科外来	■ 泌尿器科外来	■ 整形外科外来	■ 慢性腎臓病 (CKD) 外来	■ 在宅血液透析 (HHD) 外来
午前	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1診	重本	山下和臣	重本	水入(腎臓内科)	山下和臣	重本
2診	竹内	西澤	水入(腎臓内科)	西澤	山下秀樹	山下和臣
3診	山下秀樹	大下	永野	小野	大下	小田
4診 DM	内藤	内藤	内藤	井上	井上	武本
5診 整形外科	石田	石田	石田	黒田(血液内科)	石田	佐々木(内科)
6診 初診	藤井	佐々木	小田	永野	小野	竹内
7診	浅井	藤田(泌尿器科)	若本	武本	藤田(泌尿器科)	泌尿器科(広大医師)
放射線科	石根、樋口	石根	石根	石根、樋口	石根	樋口
午後	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1診	16:00~18:00 永野	16:00~18:00 井上	15:00~18:00 藤井	16:00~18:00 浅井	16:00~18:00 若本	16:00~18:00 藤野
2診	16:30~18:30 呼吸器 濱田	16:30~18:30 循環器 木原	16:30~17:00 藤野	16:30~18:00 PD 西澤	16:30~18:00 呼吸器 濱田	16:30~18:00 DM 武本
3診	16:00~17:00 小田	16:30~18:00 専門外来 CKD 水入	16:30~18:00 専門外来 HHD 西澤	16:30~18:00 専門外来 CKD 水入	16:30~18:00 専門外来 CKD 西澤	—
4診	16:30~18:00 専門外来 内藤	16:30~17:00 専門外来 小野	16:30~18:00 専門外来 佐々木	—	—	—
5診	16:30~18:00 専門外来 フットケア 井上	—	—	14:30~18:30 整形外科 石田	16:30~18:00 循環器 竹内	—
7診	—	—	—	14:00~15:00 特定健診 武本	—	—

※手術・救急・学会などにより担当医が予告なく変更することがあります。

周辺地図



あさひ

一陽会広報誌

平成26年
6月号
vol.43



題名 「中学生の春」

撮影 事務部 金子真由美

一陽会

- 原田病院** 院長 重本 憲一郎
〒731-5134 広島市佐伯区海老山町7番10号 TEL 082-923-5161 FAX 082-921-8035
- 一陽会クリニック** 院長 碓井 公治
〒731-5133 広島市佐伯区旭園10番3号 TEL 082-924-0033 FAX 082-924-0037
- イーストクリニック** 院長 有田 美智子
〒732-0814 広島市南区段原南1丁目3番53号 イーストビル6F TEL 082-506-0123 FAX 082-567-7115
- 横川クリニック** 院長 藤田 潔
〒733-0011 広島市西区横川町2丁目7番19号 横川メディカルプラザ3F TEL 082-231-0111 FAX 082-231-0155
- クローバー訪問看護ステーション** 所長 大泉 淳
クローバー居宅介護支援事業所 所長 平田 恵美
〒731-5133 広島市佐伯区旭園5番58号 TEL 082-925-6222(訪問看護) 082-925-6221(居宅介護) FAX 082-925-6223(共通)
- ケアレジデンス楽々園** 施設長 大谷戸美代子
デイサービス楽々園 所長 西 幸子
クローバーヘルパーステーション 所長 甲斐 慎一郎
〒731-5136 広島市佐伯区楽々園3丁目14番3号 TEL 082-943-8686(ケアレジデンス楽々園) 082-943-8585(デイサービス楽々園) 082-943-7088(ヘルパーステーション) FAX 082-943-8588(共通)

あさひメディコ

- グランホームあさひ** 施設長 日高直美
デイサービスあさひ 所長 畑 干恵
〒731-5133 広島市佐伯区旭園9番31号 TEL 082-943-7773(グランホーム) 082-943-8610(デイサービス) FAX 082-943-8600(共通)

あとがき

これからの季節注意したい「熱中症」。広島県では昨年6月から9月の間に熱中症で救急搬送された数は1591件、14名の方がなくなったそうです◆熱中症は、高温環境下で体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体内の調整機能が不調になることで発症する障害の総称です。人間の深部体温は37℃位ですが、皮膚の温度は33℃ほど。病気が闘う際は免疫細胞が活発に働く38℃位に上がりますが、病でもないのに体温が上がるのは体にとって障害となります。汗をかくための水分は血液によって運ばれますが、抹消の血流が増加すると脳の酸素が減り偏頭痛の原因になります。蒸し暑いと皮膚の表面にどんどん血液を送り込むため心臓にも負担がかかります。◆熱中症を防ぐには、エアコンで温度や湿度を下げるのが1番。エアコンを嫌う方は、扇風機やウチワで皮膚の周りの熱気を飛ばすだけでも効果があります。特に頸動脈を集中的に冷やすのが効果的で、首回りにベタつく汗を蒸発しやすいアルコール成分の入ったウェットティッシュや水で濡らしたハンカチ等でこまめにふき取るだけでも効果があります。◆今年は残暑も厳しくなると予想されています。外出時には扇子やウェットティッシュを携帯するなどくれぐれも熱中症にご注意ください。(N.U)

発行 一陽会広報委員会

〒731-5134 広島市佐伯区海老山町7番10号
TEL 082-923-5161(代) FAX 082-921-8035
ホームページ http://www.icy.or.jp E-mail info@icy.or.jp (一陽会 広報室)
ご意見ご質問があれば上記の一陽会広報室までご一報ください。

一陽会 基本理念

- 愛情ある奉仕の心を以って地域医療・介護に貢献する。
 - 和衷共同して技術の向上と人格の形成に努める。
 - 誠心と創意工夫を以ってその職責を全うする。
- 一陽会職員は、「愛・和・誠」を是訓として、日々の診療にあたっております。

患者の権利

- 患者は人としての尊厳を維持する権利を有します。一陽会職員は患者のプライバシーの保護に努め、患者により選択された医療の提供を行います。
- 患者は納得できる医療を受ける権利を有します。一陽会は患者に必要な情報提供と説明を行い、インフォームドコンセント(納得診療)を適切に行います。
- 患者は医療機関の選択の自由の権利を有します。患者にはいかなる治療段階においても他の医師等の意見をもとめる権利(セカンドオピニオン等)があり、一陽会はこれを支援します。

原田病院 基本方針

- 地域ニーズに応える地域密着型の病院をめざす。すなわち、高齢化が進む今日、高齢者の急性期医療を担うという当院の役割を明確にする。その為に、病診・病病連携を密にし、紹介患者の受け入れ、及び回復後の逆紹介を励行する。
- 医療、介護、福祉の関連機関と協力して、在宅医療を支援・推進する。また医療の質を高めることにより早期社会復帰、平均在院日数の短縮をはかり、急性期型病院を維持する。
- 患者中心の医療を目指す。すなわち患者の権利、尊厳、利益、希望を尊重した医療を実現するため、相談窓口、検討機関を広く設け、積極的に実施する。

新任医師紹介

今年、一陽会に入職した2名の医師をご紹介します。



糖尿病内科 永野良子
鳥取大学医学部(平成8年卒)
日本内科学会認定内科医

平成26年3月から原田病院で勤務しております永野良子です。これまでは土谷総合病院や広島鉄道病院で、糖尿病や甲状腺疾患を対象とした外来診療に従事しておりました。糖尿病をはじめとする生活習慣病では日々の過ごし方が治療効果に直結するため、患者さん自身が、病気や治療について知ることや合併症も含めた現在の状態を把握することが重要となります。そのために、治療だけではなく療養指導も含めた継続したサポートを提供できるよう、努力していきたいと思っております。また近隣の先生方と連携して、糖尿病診療のみならず、地域医療に貢献できるよう精進していきたいと存じます。ご指導ご鞭撻のほど、何とぞよろしくお願いいたします。



内科 藤野早知栄
広島大学医学部(H24年卒)

平成26年4月より原田病院に勤務しております藤野早知栄です。県立広島病院で2年間の初期研修を終え、腎臓内科医として原田病院へ着任いたしました。原田病院では様々な業種のスタッフが手を取り合い、近隣の先生方にご援助いただきながら、地域に根差した医療を目指しているのが印象的です。まだ不慣れな点・未熟な点も多いかと存じますが、そんな原田病院の一員として、一日も早く地域の皆さまにご信頼いただける医療を提供できるよう、日々精進していく所存です。今後ともご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

一陽会からのお知らせ

病態栄養学会のコンテストで「優秀賞」を獲得しました。

平成26年1月11日に大阪国際会議場で開催された第17回日本病態栄養学会年次学術集会での特別企画「当院自慢の「糖尿病食(1600kcal)」コンテスト 美味しさと簡便さをとりいれた糖尿病食～地域の特色を生かす食事の工夫～」に応募し、「優秀賞」をいただきました。

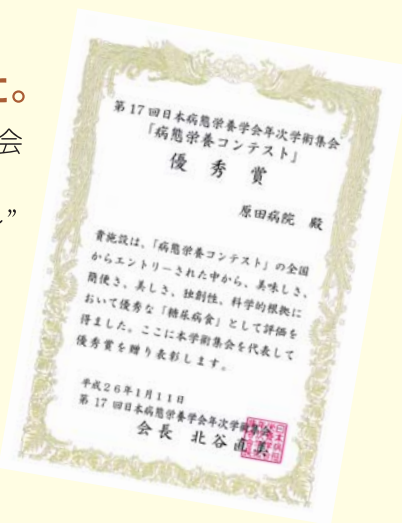
コンテストでは、プレゼンテーション以外に写真と試食による審査もあり、当院は「鶏肉のパプリカ焼」で応募しました。

この料理は油を使わずに鶏のから揚げ風に見せる料理です。コンセプトは、患者さまにとって自宅での食事は家族構成が大きく影響し、特に育ちざかりの子どもさんがいるご家庭では、子ども中心の食事になってしまいがちです。そのため糖尿病食を意識できないと悩む方も多く、自慢の1品は外見や食感が鶏肉の唐揚げを感じさせることから、ご家族と同じ料理を楽しめ、エネルギーコントロールが可能となる点で、食事療法を始めるきっかけになればと考えました。

今回この企画に参加し、他施設の色々な工夫を拝見し大変勉強になりました。

これからも、さらに患者さまに喜んでいただける内容を検討していきたいと考えています。

栄養科士長 藤岡 真弓



鶏肉のパプリカ焼

近隣医療機関のご紹介 まんたに心療内科クリニック (佐伯区五日市)

「最新の精神医療をリラックス空間の中で」今回は五日市駅前のまんたに心療内科クリニックのご紹介です。

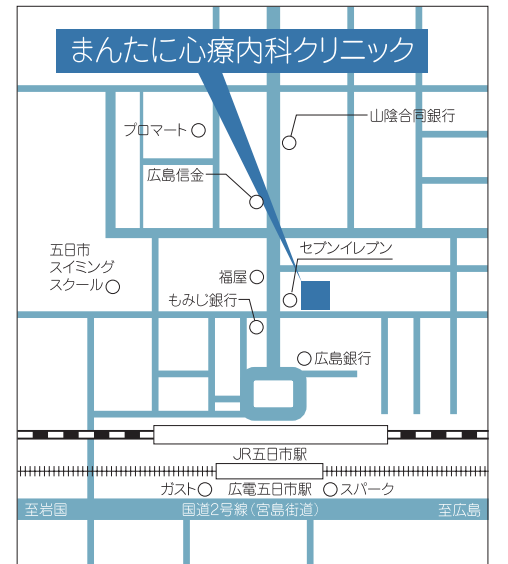
平成23年に開業し、3年が経過しました。当院通院中の患者さまを紹介させて頂く機会も多く、原田病院の先生方にはいつも大変お世話になっております。

当院では、主にうつ病、パニック障害や極度のあがり症などの不安神経症、認知症などの心療内科疾患の治療を行っています。軽症の方であれば、生活習慣の改善やストレスとの付き合い方のアドバイスなどで改善することも多いので、初診時には充分時間を取りじっくりお話を伺って治療を開始しています。また、アジアンテイストな院内インテリアもご好評頂いています。

心療内科疾患と喫煙は意外と関係が深いため禁煙外来にも力を入れており、今までにたくさんの方が禁煙に成功されました。当ビルでは駐車場も含めた敷地内禁煙を実施し徹底しています。実際に禁煙により精神症状が改善することも多く、禁煙された方自身がとても驚かれます。禁煙でお悩みの方もお気軽にお越しください。

まんたに心療内科クリニック
院長 萬谷 昭夫

- 所在地 〒731-5125 広島市佐伯区五日市駅前1丁目5-18 グラシアビル302
- 診療科目 TEL.082-924-0020 FAX.082-924-0023 心療内科、精神科、禁煙指導
- 診療時間 午前 9:00～13:00 午後 15:00～18:00
- 休診日 水曜日・土曜日午後、日曜日、祝日
- 駐車場 31台



イーストクリニック増床

イーストクリニックは、平成10年5月、南区段原の地に一陽会3番目の透析施設として開院しました。

ベッド数24床、透析患者数9名からスタートしましたが、近隣の医療機関からのご紹介を賜りまして、平成20年、48床に増床、今年2月には56床に拡張いたしました。現在、29歳から96歳までの160余名の患者さまが通院されています。

イースト名物である壁全面の窓からの景色はまさに比治山のパノラマです。春は桜、初夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪景色など四季折々が感じられ、患者さまに喜んでいただいています。明るくゆったりとしたスペースで、快適な透析を受けていただけるよう配慮いたしました。



また、6つの医療チーム(栄養管理、フットケア、シャント管理、医療安全、腹膜透析、患者指導)を編成して医療レベルの向上に努めるとともに、患者さまが安心して安全安楽な透析を受けられるようスタッフ一同日々研鑽しております。今後ともよろしくお願いいたします。

イーストクリニック院長 有田美智子



topics

トピックス
I

フットケア専門外来



原田病院では、毎週月曜日、13時～16時にフットケア専門外来を実施しています。

「フットケア外来」とは、少しでも長く歩ける足を護り、足から全身を診ることを指します。持病を持たない患者さまは、靴擦れや熱傷、水虫(足白癬)、巻き爪(嵌入爪)などが原因で足の切断が必要となることは多くはありません。しかし、糖尿病や下肢閉塞性動脈硬化症、人工透析を行っている患者さま、または、高齢者では、些細な足の傷が治癒しにくく、重症化して足の切断に至ってしまうことがあります。糖尿病を持つ足病変の患者さまで、足の切断となった方のほとんどが、足の潰瘍や靴擦れなどのささいな物理的外傷が原因となっています。そのためにも、予防としてのフットケアが重要であり、近年注目されています。

糖尿病や人工透析患者数は増加の一途をたどっています。糖尿病の足病変が足潰瘍や足壊疽と重症化するのを予防する目的で、医師と看護師のチーム医療によるフットケアが糖尿病合併症管理料として新設されたことで当院では専門外来として行っています。再発率が高い足潰瘍や足壊疽の既往のある方や、末梢動脈疾患、糖尿病神経障害を持つ方を対象に、医師がフットケアを必要と認めた場合に、看護師がセルフケアや爪や胼胝(たこ)の処置を行ったり、靴のアドバイスをするなどを行っています。

外来でも、昨年7月からフットケア外来を開設し、発足から、3月末まで患者数23名延60件のフットケアを行ってきました。

糖尿病チームとして外来看護師や糖尿病療養指導士(糖尿病療養指導士とは、糖尿病とその療養指導に関する幅広い専門知識を持ち、患者さまの生活を理解し、適切な自己管理ができるように援助する役割をもつ専門家)などがそれぞれの専門分野を生かしながらチームとして連携し活動しております。対象は糖尿病患者さま、医師が必要と判断した方に対して同意書を頂いたうえで予約をおとりします。内容としては、外来看護師が担当となり、毎週月曜日に3名のフットケアを行っています。足の状態の確認や足浴・爪切り・胼胝(たこ)・鶏眼(うおのめ)などの処置を行い、スキンケアなどの指導などを実際に行っています。患者さまも慣れてくるにしたがって、すすんで看護師の足処置を受けられています。ケア中に指導やカウンセリング等を行うことは、看護師のやりがいにもつながっています。現在は外来でケアを行っていますが、外来患者さまだけでなく、病棟・透析室からの依頼も受け、連携を取りながらフットケアを行うなど、チーム医療を行っています。

今後は、より多くの患者さまに対応できるよう、スムーズなシステム作りや予約枠の拡大など考え、足病変を早期に発見し健康な足を取り戻すお手伝いをしたいと努力しております。

外来糖尿病チーム・リーダー 宮本千賀子

フットケア時の注意点

- * アセスメントを十分に行う。
- ↓
- * 下肢虚血の有無。
- * ・足背動脈の確認。
- * ・ABIの測定
- ↓
- * 下肢虚血が明らかな場合は、創部の悪化する可能性が高いため、下肢のPTAやバイパス術も適応がないか血管外科の受診も必要。

糖尿病合併症管理料って何？

- * H20年に下肢切断の患者が多いため、下肢切断を予防するために診療報酬で加算ができるようになりました。
- * 1か月に1回170点
(条件)
- * 糖尿病にて加療している人
- * 1回のケア時間は30分以上。

当院のフットケア外来

- * 対象は当院にて糖尿病治療中の方。
- * 足にトラブルがある方。
- * 医師がフットケアを必要と認めた場合。
- ・日時:毎週月曜日 13:00～16:00 完全予約制
- ・場所:5診察室
- ・費用:保険診療になります。1割負担170円、3割負担510円



第39回 広島県病院学会

日時：平成26年2月16日（日）
場所：広島医師会館

第39回広島県病院学会に、一陽会から3演題の研究発表を行いました。
今回の研究で学んだことを日頃の診療に活かしていけるよう努めてまいります。

演題：透析患者における運動療法の効果 ～重心動揺検査を用いた一考察～

医療法人一陽会 原田病院

○牛見泰三、山口知直、水野和子、齋藤晃平、森山良太、石田了久

【目的】

透析患者は同世代の健常者と比較し運動機能が低下しやすく、ADLやQOLの低下に結び付くとされている。また、透析患者による運動療法はリスクが高く、積極的にリハビリが行われていないのが現状である。今回、透析運動療法の効果を立証し、その必要性和普及を目的に検証を行った。

【研究対象】

外来透析患者：9名（男性6名 女性3名）

男性平均年齢：66.2歳（57歳～87歳）

女性平均年齢：74.3歳（69歳～79歳）

平均年齢：70歳

男性透析歴 平均：3年2ヶ月（2年4ヶ月～4年3か月）

女性透析歴 平均：4年11か月（1年6ヶ月～7年3か月）

平均透析歴：4年

【研究方法】

無作為に抽出した透析患者に当院独自の転倒予防体操の資料を配布し、3か月間実施してもらった。その運動療法の効果の指標としてアニマ社製GP-6000を使用し、重心動揺検査（開眼・

演題一覧

* 外来における継続看護の必要性

○ 手島織枝、庄子千鶴満、山内恵子、加澤佳奈、本多祥子、飯村久子、新田千恵美、吉田美幸、水入苑生、重本憲一郎、原田 知

* 当院における細菌システムを活用したサーベイランス（誌上发表）

○ 加東かおり、久保井範幸、本丸忠生、天田 登、山下和臣、水入苑生、重本憲一郎、原田 知

閉眼1分)を毎月1回実施した。

また、運動について意識調査のためのアンケートを運動療法実施前・後に行った。

【結果】

・ 重心動揺検査…開眼・閉眼ともにバランスが9例中6例（67%）において向上した。

・ アンケート調査…運動療法実施前・後で比較すると運動療法に対する意識が変わり、全例において今後も運動療法を継続したいという希望があった。

【考察】

本研究において運動療法の必要性、効果を立証することが出来た。また、バランス向上以上に患者自身が運動療法を行う事で体の変化を感じることができ、モチベーションの向上にもつながった。

このことから透析患者のADL・QOLを維持することに運動療法は必要であると考えられる。

考察①

姿勢保持には下肢筋の活動が重要な役割をしていると報告されている。

これにより重心動揺面積が改善したのは運動療法で下肢筋の活動能が増加したことが一因であると考えられる。

考察②

運動療法資料を配布し実施したことで患者自身が体の変化を実感し、運動に対する動機付けとなり習慣化したと考える。

透析患者のADL・QOLを維持するには運動療法が重要であると示唆される。

重心動揺検査結果（開眼）



重心動揺検査結果（閉眼）

